

教 育 研 究 業 績 書

2021年5月1日

氏名 木幡 日出男

学位 修士 (カウンセリング)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
健康・スポーツ科学	スポーツ心理学、スポーツ・カウンセリング、スポーツ・コーチング	
主要担当授業科目	スポーツ心理学, 健康・スポーツ心理学演習, スポーツ・カウンセリング論, スポーツ・カウンセリング特講, 屋内ラケットスポーツ他	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書・教材		
1) キャリアデザインノート 2007 年度	平成 19 年 3 月	「自己分析」の項目を分担執筆。現在の自分と将来の自分について具体的に記述することで客観的分析方法を提示した。 pp14-20
2) キャリアデザイン講義資料集	平成 19 年 3 月	授業満足度の分析と「自己分析」について具体的に職業を通して自分を見つめる材料を提供した。pp2-3、pp26-36
3) 新訂 基礎演習・ディベートのためのテキスト	平成 23 年 3 月	日山紀彦、長谷部孝司、木幡日出男、出雲輝彦、福山裕宣、川北準人、岩瀬 弘和、「Ⅲディベートの授業の進め方」P.94-105. 新入生必修授業科目「基礎演習」と「ディベート」の使用テキストである。初めて当該科目を担当する教員でも授業の展開を理解し進めることができるように事例を挙げ解説した。特に、ディベートを進める上で陥りやすい箇所を詳述した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) ファカルティ・セミナー	平成 18 年 2 月	学内において選択科目「健康スポーツ (スキー&スノーボード)」の集中実習授業の成果を実践報告。
2) 研究助成金の受給: 「留学生に対する大学体育実技の現状に関する調査研究—授業展開における実態と課題を中心に—」 (後掲)	平成 18 年 3 月	(社)大学体育連合から研究助成金の受給。 大学体育学、第4号、 pp 45-56 日本人と留学生とが混在する大学体育授業においてその実態と課題を抽出した。
3) 研究助成金の受給: 「外国人留学生の大学入学以前の体育・スポーツ経験に関する調査研究」 (後掲)	平成 21 年 3 月	(社)大学体育連合から研究助成金の受給。 大学体育学、第6号、 pp 79-90 共著: 出雲輝彦、木幡日出男、川北準人 日本人と留学生とが混在する大学体育授業においてその実態と課題を抽出した。その結果、両者の授業に対する準備性と教育背景の違いが授業の運営に支障を来たしていた。

<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p>		
<p>1) 大学スキー研究会シンポジウム</p>	<p>平成 12 年 1 月</p>	<p>平成 12 年度「大学スキー研究集会」全国の大学に所属する体育教員の所属する研究会にて本学授業「シーズンスポーツ（スキー）」の実践報告を行い、運営、学習効果の点で高い評価を得た。</p>
<p>2) 第7回青少年スポーツフォーラム</p>	<p>平成 15 年 3 月</p>	<p>八千代市スポーツ指導者資格更新講習を兼ねた研修講師として 講演。テーマ：「スポーツ心理学をコーチングに生かす」。</p>
<p>3) 平成 16 年度 八千代市スポーツ指導員認定 講習会</p>	<p>平成 16 年 2 月</p>	<p>八千代市スポーツ指導員認定講習会講師として講演。 テーマ：「選手のためのコーチング」市スポーツ指導員を対象に指導者の心構え、選手の能力開発などに関して講習した。</p>
<p>4) ロータリークラブ 2780 地区 特別講演</p>	<p>平成 17 年 10 月</p>	<p>「スポーツにみるリーダーシップ」講師（ロータリー2780 地区）約 1,000 名のロータリアン出席者を対象にスポーツを例にリーダーシップの理論と事例について講演し、出席者の社会的役割と責務に有益な情報を提供した。</p>
<p>5) 東京成徳大学 公開講座 テーマ「ふれあいと相互理解」</p>	<p>平成 19 年 9 月</p>	<p>「スポーツをとおしたふれあいと相互理解」 （八千代市教育委員会 共催 公開講座）講師：希薄になりつつある地域社会においてスポーツの果たす役割の再認識をし、同時に健康で活力ある社会生活を送る上での健康・力づくりの方法を解説・実践した。</p>
<p>6) 東京成徳大学 公開講座 テーマ「こころとからだ」 第 6 回講座担当</p>	<p>平成 21 年 10 月</p>	<p>「くらしの中の健康維持・体力増進法」 ～寝たきりにならないために～ 平均寿命 24 年連続世界一という時代背景のもと、生活習慣病の改善、メタボリックシンドロームの予防、体力低下の対応など、意識して日常生活の中にスポーツやレクリエーションを含む身体活動を健康・体力づくりの手段として取り入れ、生き生きとした生活を営むことの基本的な考え方、身体を動かすことの効果を生理学的側面と心理学的、文化社会的側面から解説した。実践編ではストレッチング、日常生活の中で手軽にできる簡単な運動を取り上げ、要領を解説しながら実践した。聴講者のスポーツ経験や年齢構成、体力水準も異なるため、個人のコンディションに合った種目や実施が望ましいことが肝要であることも述べた。</p>
<p>7) 平成 21 年度深谷市スポーツ指導者講習会</p>	<p>平成 21 年 10 月</p>	<p>第 1 回深谷市体育指導員講師として講演。 「スポーツ指導者におけるリーダーシップ論」のテーマで深谷市スポーツ指導員の資質向上を目的に講演を行った。</p>
<p>8) 八千代市スポーツ指導員認定講習会 スポーツセミナー「青少年のスポーツと指導」（心づくりと体づくり）</p>	<p>平成 23 年 9 月</p>	<p>八千代市内で青少年指導に携わっている指導者の資質向上を目的とした講習会にて、セミナー形式による講演と参加者討議を実施した。 スポーツセミナー「青少年のスポーツと指導」（心づくりと体づくり）</p>

9)平成 26 年度八千代市スポーツ指導員認定講習会 スポーツフォーラム「青少年のスポーツと指導」(心と体の健康)	平成 25 年 3 月	スポーツフォーラム「青少年のスポーツと指導」(心と体の健康) 八千代市内で青少年指導に携わっている指導者の資質向上を目的とした講習会にて、セミナー形式による講演と参加者討議を実施した。
10)平成 27 年度八千代市スポーツ指導員認定講習会 スポーツセミナー「青少年のスポーツと指導」(心と体の健康)	平成 26 年 3 月	スポーツセミナー「青少年のスポーツと指導」(心と体の健康) 八千代市内で青少年指導に携わっている指導者の資質向上を目的とした講習会にて、セミナー形式による講演と参加者討議を実施した。
11)東京成徳大学サッカー部指導 千葉県大学サッカー連盟 2 部リーグ優勝、1 部リーグ昇格	平成 29 年 11 月 平成 30 年 4 月	東京成徳大学男子サッカー部の指導を通じて、2 部リーグ優勝、翌年度の 1 部昇格を果たす。
12)平成 30 年度千葉県生涯スポーツ公認指導員養成講習会「スポーツの心理 I」	平成 30 年 8 月	千葉県教育庁(教育振興部体育課スポーツ推進室生涯スポーツ班)主催による生涯スポーツ公認指導員に必要な学修内容として基礎となる「スポーツの心理 I」を講義した。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許		
・高等学校教諭二級普通免許 「保健体育」	昭和 55 年 3 月	福島県教育委員会 (教第 9 0 2 8 号)
・スキー技能 1 級	昭和 57 年 1 月	(財) 全日本スキー連盟スキー基礎技能 (埼玉県) (No. 2 3 0 4)
・高等学校教諭一級普通免許 「保健体育」	昭和 58 年 3 月	茨城県教育委員会 (昭 5 7 高一普第 1 8 7 号)
・心理相談員	平成 8 年 12 月	中央労働災害防止協会 (No. 4 0 3 8 2 7)
・アマチュア無線技士第 4 級	平成 10 年 12 月	関東電気通信監理局長 (No. AAWN 0 7 0 5 5)
・認定スポーツカウンセラー 2 級	平成 16 年 4 月	日本臨床心理身体運動学会認定 (No. 2 - 0 0 4 6)
・スノーボード 1 級	平成 17 年 1 月	(財) 全日本スキー連盟 (青森県) (No. 2 0 5 b h k 0 7)
・公益財団法人日本サッカー協会公認 C 級コーチおよび公益財団法人日本体育協会公認指導員	平成 20 年 2 月	公益財団法人日本サッカー協会公認 C 級 (C000512803)
・公益財団法人日本サッカー協会公認キッズリーダー	平成 29 年 8 月	公益財団法人日本サッカー協会キッズリーダー (ALL)

2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての 特記事項 1) 八千代市スポーツ振興審議会委員 <名称変更> (八千代市スポーツ推進審議会) 八千代市スポーツ推進審議会副会長 2) 八千代市生涯学習審議会 委員 3) 八千代市社会教育委員	平成10年6月～平成25年1月 平成25年2月～平成29年2月 平成18年10月～平成24年9月 平成21年7月	少子高齢化に伴い、市民の健康・体力づくりやコミュニケーション形勢などスポーツに関連する計画・実行・再検討などを通して施策の提言をしている。 会長を補佐しながら市民のスポーツ活動の推進と施策の提言をしている。 市民の生涯学習の視点からより有益な学習環境、情報、施設のあり方などについて提言している。 社会教育に関する諸計画の立案、意見陳述、青少年教育に関する助言指導を行う。
4. その他 1) 千葉県大学サッカー連盟 理事 2) (公社)千葉県サッカー協会マッチコミッショナー委員会委員 3) 千葉県大学サッカー連盟 副理事長 4) 関東大学サッカー連盟 評議員 5) 一般財団法人関東大学サッカー連盟理事 6) 全日本大学サッカー選手権大会 実行委員会委員	平成10年4月～平成31年1月 平成17年4月～平成24年3月 平成21年4月～平成31年1月 平成21年4月～平成25年12月 平成26年1月～平成31年1月 平成26年12月～平成30年12月	(公社)千葉県サッカー協会第1種：大学学生サッカー選手の加盟する連盟において健全な管理運営とその指導を行なっている。 (公社)千葉県サッカー協会主催の試合をマッチコミッショナーの立場から統括・指導を行う。 (公社)千葉県サッカー協会第1種：大学連盟において理事長を補佐し、学生スポーツの発展、競技運営の支援を行っている。 関東大学サッカー連盟における学生サッカー競技の健全な発展、活動の推進、企画運営等の評議を決する。 関東地域に所属加盟している大学のサッカー競技を企画立案、運営マネジメント、活動活性化等、競技委員会メンバーとして統括。 大学サッカーの全国大会における大会実行委員会委員として大会運営に参加した。

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 図文・体育・スポーツシリーズ「図解と写真によるサッカー」	共著	昭和60年1月	図書文化 pp. 92-98	共著：森岡理右、萩原武久、 <u>木幡日出男</u> ほか 第2章第3節「サッカーのゲームのすすめ方」執筆 ルールの基本を解説。
2. 「たくましく生きる子を	単著	平成6年8月	金子書房 pp. 49-54	単著：しなやかなからだを形成する上で

育てるには～しなやかで丈夫なからだづくり～				の運動・スポーツの指導の在り方とその工夫を紹介しながら、子ども自ら成長する力を育てる環境整備が不可欠であることを述べた。
3. 「スポーツ指導のリスクマネジメント」	共著	平成7年7月	(財)三菱養和スポーツ文化研究会 pp. 55-74	共著：大橋二郎、 <u>木幡日出男</u> 「4. スキー」に関して、法例を引用しながら指導上のリスク・マネジメントの留意点について執筆
4. 「現代カウンセリング事典」	共著	平成13年12月	金子書房 pp. 296	共著：國分康孝監修、 <u>木幡日出男</u> ほか「レジャー・カウンセリング」余暇生活充実のための理論と処方について解説。執筆
5. 「最新サッカー百科大事典」	共著	平成14年4月	大修館書店 pp. 515-540	共著：(財)日本サッカー協会・日本サッカーライターズ協議会(編) <u>木幡日出男</u> ほか、専門用語解説担当 pp. 515-540 において15項目を執筆。
6. 「カウンセリング心理学事典」	共著	平成20年11月	誠信書房 pp.	共著：國分康孝監修、 <u>木幡日出男</u> ほか日本初のカウンセリング心理学事典である。カウンセリング心理学と臨床心理学の異同を提示し、またカウンセリングとカウンセリング心理学の識別をも提示している。
7. 「産業カウンセリング辞典」	共著	平成20年11月	金子書房 pp. 57.	共著：松原達哉、木村周、桐村晋次編 <u>木幡日出男</u> ほか 働く人が抱える問題を明らかにし、より良い生き方・働き方を支援する心理専門職がさらに求められている現在、「働くこと」に関わるカウンセリング領域を構成する諸分野の基本的用語を取り上げて、分かりやすく解説している。
8. 「カウンセリングのすべてがわかる」	共著	平成22年11月	技術評論社 pp. 165-166	共著：國分康孝・新井邦二郎監修、石村、羽鳥、浅野編著、 <u>木幡日出男</u> ほか 「スポーツにおけるカウンセリングってどんなものですか？」スポーツ・カウンセリングの主旨とカウンセラー資質等について記述した。
9. 東京成徳の心理学	共著	平成27年4月	東京成徳大学 pp21-22	共著：第21話「スポーツ・メンタル・トレーニング」について、上達(技術向上)するためには、スポーツ・パフォー

<p>10. 高校サッカー競技者とコーチの人間関係についての検討</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—, 第 23 号, 93-102.</p>	<p>マンスは、準備の程度によって決まる、ここは、メンタル・スキル・トレーニングでなどの視点から解説した。第 22 話「スポーツ・カウンセリングによるパフォーマンス向上」では、思い悩むことは無駄ではない、人間的成長がパフォーマンスレベルを上げる、良き相談相手（指導者も含めてスポーツカウンセラー）との出会いなどが練習成果を高める。</p> <p>共著：木幡日出男、岡田弘隆、石井辰典、夏原隆之、市村操一 高校生の課外活動に所属している選手である生徒たちと指導者である教員との人間関係について「競技者—指導者人間関係調査票（CART-Q）」を用いて調査検討した。その結果、諸外国の指導者と選手との関係と比較すると日本の高校生と指導者との人間関係は低い傾向がみられた。また、その背景については今後の課題とされた。</p>
<p>11. コーチ・競技者間の人間関係の心理学的研究の展望：CART-Q を用いた研究を中心に（総説）</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年 10 月</p>	<p>コーチング学研究, 2019, 33(1), pp.13-20.</p>	<p>共著：市村操一、川北準人、岡田弘隆、山口香、木幡日出男 コーチと競技者との人間関係について、CART-Q を用いた研究を中心に、スポーツ心理学領域における研究の展望と将来の課題についてまとめた。</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. 「"Concepts in Skill Learning" に関する文献研究」 (学位論文)</p> <p>2. 「サッカーのゲームにおけるチームの競技力診断に関する分析的研究」 (学位論文)</p> <p>3. サッカーのゲームにおけるチーム力のスカウティングに関する因子分析的研究</p> <p>4. 東京商船大学学生の体格・体力・運動能力</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>単著</p>	<p>昭和 55 年 3 月</p> <p>昭和 58 年 3 月</p> <p>昭和 58 年 12 月</p> <p>昭和 60 年 12 月</p>	<p>福島大学教育学部特別保健体育教科卒業論文</p> <p>筑波大学大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻修士論文 P. 133</p> <p>東京商船大学研究報告 (人文科学), 第 34 号, pp 17-32</p> <p>東京商船大学研究報告 (人文科学), 第 36 号, pp</p>	<p>運動学習における概念と理論について外国文献を通じた文献研究を行なった。</p> <p>日本のサッカー一流指導者を対象に必須の能力である相手チームの分析視点を調査し、統計的分析を行い経験者の独自の視点を解明した。</p> <p>共著：木幡日出男、江田昌佑、松本光弘 指導者の試合分析視点をアンケート調査と因子分析視点から解明した。</p> <p>単著：木幡日出男 学生の体力に関する諸能力について経</p>

5. 球技系運動選手の心理的適性の分析	単著	昭和 63 年 12 月	29-50 東京商船大学研究報告 (人文科学), 第 39 号, pp 85-9	年的変化を分析した。 単著: 木幡日出男 球技系課外活動に所属している学生のスポーツにおける心理的適性についてその特徴を明らかにした。
6. 一流サッカー選手の心理的適正と競技行動について	単著	平成 2 年 12 月	東京商船大学研究報告, (人文科学), 第 41 号, pp 75-87	単著: 木幡日出男 1982 年バルセロナ・オリンピック代表候補選手の競技に関する心理的適性と選手の競技行動についてその関連性を明らかにした。
7. 女子競技者の競技意欲について	共著	平成 8 年 6 月	高崎経済大学論集, 第 39 巻, 第 1 号, pp 1-15 大学体育学, 第 4 号, pp 45-56	共著: 高橋章, 木幡日出男 女子競技選手の心理的適性としての競技意欲に関して調査研究した。
8. 「プロ・サッカー選手の離職の心理と離職後の生活へのプロセス」 (学位論文)	単著	平成 9 年 3 月	筑波大学大学院修士課程教育研究科カウンセリング専攻 カウンセリング・コース 修士論文 P. 274	単著: 木幡日出男 契約更新されなかったプロ選手の心理とセカンドキャリアへの移行プロセスを調査と事例研究を基に明らかにした。
9. 留学生に対する大学体育実技の現状に関する調査研究—授業展開における実態と課題を中心に— 【再掲】	共著	平成 19 年 3 月	大学体育学, 第 4 号 pp 45-56	(社) 大学体育連合から研究助成金を受給。 共著: 出雲輝彦, 木幡日出男, 川北準人 日本人と留学生とが混在する大学体育授業においてその実態と課題を抽出した。その結果, 両者の授業に対する準備性と教育背景の違いが授業の運営に支障を来たしていた。
10. 外国人留学生の大学入学以前の体育・スポーツ経験に関する調査研究 【再掲】	共著	平成 21 年 3 月	大学体育学, 第 6 号 pp 79-90	(社) 大学体育連合から研究助成金を受給。 共著: 出雲輝彦, 木幡日出男, 川北準人 日本人と留学生とが混在する大学体育授業においてその実態と課題を抽出した。その結果, 両者の授業に対する準備性と教育背景の違いが授業の運営に支障を来たしていた。
11. 「ボランティア体験に根ざした学生育成と地域連携に関するプロジェクト報告書〜3 年間の総括とこれから〜」 八千代市新川わくわくプレーパーク・ボランティア (2010 年度活動報告)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学ボラブプロジェクト編集委員会 「ボランティア体験に根ざした学生育成と地域連携に関するプロジェクト報告書〜3 年間の総括とこれから〜」 P. 80-103	共著: 海保博之, 中山哲志, 須藤泰子, 根津克己, 小林厚子, 出雲輝彦, 木幡日出男, 宮本文雄 大学と八千代市との地域連携事業の報告書である。 担当部分: 八千代市新川わくわくプレーパークにおける健康・スポーツ心理学科学生のボランティア活動における児童

<p>12. Q&A フィットネス指導におけるスポーツ心理学について教えてください。</p>	<p>単著</p>	<p>平成 25 年 9 月</p>	<p>月刊ジャパンフィットネス、NO. 324 P36-37</p>	<p>生徒の遊びやプレーをとおした発育発達の情報の提供とそのコーディネートならびに指導を行った。また、地域連携活動に伴う企画・立案・派遣システムの再構築について提言をした。</p> <p>単著：<u>木幡日出男</u> スポーツ心理学はスポーツの実践や指導に科学的な基礎を与えることを目的とした心理学の一領域であり、フィットネス指導においても重要な学問領域である。 スポーツ心理学の概略、指導上のカウンセリングの果たす役割、受講者の意欲の高め方、そして参加者の参加動機の評価について回答した。</p>
<p>13. スポーツにおける Take-First ヒューリスティックの有効性～サッカーにおけるパス選択場面を用いた検討～</p>	<p>共著</p>	<p>平成 27 年 9 月</p>	<p>日本心理学会第 79 回大会、日本心理学会大会予稿集(79)、p. 636</p>	<p>共著：石井辰典・夏原隆之・<u>木幡日出男</u> スポーツ場面での素早い意思決定において、最初に挙げたプレーが最も高い評価を受け、その後は思いついた順番に評価が下がっていくことが知られている。本研究では、サッカーにおけるパス選択場面において最初に思いついた選択肢を選ぶ方略(Take The First)について検討した結果、選択肢を挙げた順番に評価が下がることが確認され、先行研究(Johnson&Raab, 2003)を支持する結果であった。</p>
<p>14. 高校サッカー選手とコーチとの人間関係に関する調査分析について</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>日本フットボール学会 13th Congress, p. 26.</p>	<p>共著：<u>木幡日出男</u>、夏原隆之 高校サッカー選手とコーチとの人間関係を CART-Q (選手―指導者人間関係調査票) を用いてデータの収集が行われた。 その結果、選手と指導者との関係は低い傾向であった。諸外国との比較においても同様であった。国内の選手と指導者との主従関係や指導者の立場が影響されているものと推察された。今後指導者資格の取得級と指導状況をさらに検討が必要であることが判明した。</p>
<p>(その他) 1. サッカーの得点に関する分析～第 59 回全国高校サッカー選手権大会から～</p>	<p>共著</p>	<p>昭和 56 年 9 月</p>	<p>日本体育学会 第 32 回大会号 p 616</p>	<p>共著：<u>木幡日出男</u>、森岡理右、松本光弘、小野太佳司 全国高校サッカー選手権大会全試合の</p>

2. サッカーの得点までのアプローチの仕方とその傾向	共著	昭和 56 年 9 月	日本体育学会 第 32 回大会号 p 615	ゲーム分析を通して高校生の得点時の地点やその方法を分析調査した。 共著:小野太佳司、森岡理右、松本光弘、 <u>木幡日出男</u> 全国高校サッカー選手権大会全試合のゲーム分析を通して得点に至るアプローチパターンや得点傾向を分析調査した。
3. サッカーのトレーニングの運動強度に関する研究	共著	昭和 57 年 10 月	日本体育学会 第 33 回大会号 p 681	共著: <u>木幡日出男</u> 、森岡理右、松本光弘、山中邦夫、小野太佳司、丹信介: 日常のサッカートレーニングの運動強度を計測することで練習の組み立てをするための目安を明らかにした。
4. インステップキックのシュート技術に関する研究	共著	昭和 57 年 10 月	日本体育学会 第 33 回大会号 p 687	共著:小野太佳司、森岡理右、松本光弘、山中邦夫、 <u>木幡日出男</u> 、榊原潔、松原悟 基本的技術であるキックのフォーム分析を通して力学的解析と初心者指導のための基礎資料を得た。
5. サッカーのゲームにおけるチーム力のスカウティングに関する因子分析的研究	単著	昭和 59 年 2 月	第 4 回サッカー医科学研究会報告書、pp45-50	単著: <u>木幡日出男</u> サッカーの一流指導者の対戦チームの試合分析をどのような視点で収集しているのかを因子分析手法により明らかにした。
6. ゲーム中におけるスローインの分析	共著	昭和 59 年 2 月	第 4 回サッカー医科学研究会報告書、pp84-88	共著:小野太佳司、大橋二郎、 <u>木幡日出男</u> 試合におけるスローインについてその傾向と得点に至るプロセス等を調査分析した。
7. 中学生サッカー選手の意識調査	単著	昭和 59 年 5 月	昭和 58 年度 (財) 日本サッカー協会科学研究部報告書、p6-17	単著: <u>木幡日出男</u> 全国大会出場の中学生サッカー選手の競技意欲など心理的側面での実態と課題について分析した。
8. ゴールキーパー指導の実態調査	共著	昭和 60 年 2 月	第 5 回サッカー医科学研究会報告書、pp1-6	共著: 鈴木滋、戸苅晴彦、掛水隆、 <u>木幡日出男</u> 、河合一武 専門的なポジションである GK に関する指導報告が極めて少ないことからその指導実態調査を実施し、現状と課題を抽出した。
9. 高校サッカー選手に対するアンケート～グラウンド外指導について～	共著	昭和 60 年 5 月	昭和 59 年度 (財) 日本サッカー協会科学研究部報告書、p41-51	共著: <u>木幡日出男</u> 、杉山進、松原裕、福井哲: 強豪チームはグラウンド外での指導も充実していることを仮説とし、その実

10. 指導者用アンケート報告	共著	昭和60年5月	昭和59年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p53-58	態をアンケート調査し分析した。 共著:松原裕、大串哲朗、鈴木滋、 <u>木幡日出男</u> 全国大会出場チームの監督を対象に指導実態の調査を実施した。
11. サッカーにおけるチームづくりの観点について	共著	昭和60年10月	日本体育学会 第36回大会号 p 709	共著:福井哲、瀧井敏郎、 <u>木幡日出男</u> : 一流指導者のチームづくりのポイントを調査し、具体的な方策を得た。
12. スポーツ・データ・バンクの開発 (2) サッカー	共著	昭和61年3月	昭和60年度国際競技力向上調査研究事業報告書 (第6報) pp44-49	共著:岩村英吉、大橋二郎、森孝慈、藤田一郎、大畠囊、佐藤弘、平木隆三、 <u>木幡日出男</u> サッカーのさまざまな現象の情報関連の蓄積を目的としてキーワードの処理を行なった。
13. ゴールキーパーの資質に関する研究	共著	昭和61年3月	昭和60年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、pp235-240	共著: <u>木幡日出男</u> 、岩村英吉、福井哲: ゴールキーパーの求められる能力について心理面的側面を含めて調査分析した。
14. 指導者用アンケート報告	共著	昭和61年5月	昭和60年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p46-50	共著:松原裕、杉山進、 <u>木幡日出男</u> 、江口潤 継続研究として全国大会出場チームの監督を対象に指導実態の調査を実施。
15. ゴールキーパーの資質に関する研究	共著	昭和61年5月	昭和60年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p53-57	共著: <u>木幡日出男</u> 、岩村英吉、福井哲: ゴールキーパーの求められる能力について心理面的側面を含めて調査分析した。
16. サッカーのゴールキーパーに関する因子分析的研究	共著	昭和61年11月	日本体育学会 第37回大会号 p 303	共著: <u>木幡日出男</u> 、岩村英吉、福井哲: 一流指導者の考えるゴールキーパーの能力に関して因子分析手法により明らかにした。
17. 中学生サッカー選手の心理的適性	共著	昭和62年2月	第7回サッカー医科学研究会報告書、pp108-114	共著: <u>木幡日出男</u> 、戸苅晴彦、杉山進、岩村英吉、富岡義雄、松原裕、福井哲、江口潤:全国大会出場チームの選手を対象に競技意欲や技術向上意欲など心理的競技能力を調査分析した。
18. スポーツ・データ・バンクの開発 (2) サッカー	共著	昭和62年3月	昭和61年度国際競技力向上調査研究事業報告書 (第7報) pp72-75	共著:岩村英吉、大橋二郎、石井義信、大畠囊、浅見俊雄、平木隆三、小宮喜久、 <u>木幡日出男</u> :継続研究としてサッカーのさまざまな現象の情報関連の蓄積を目

19. サッカーのゲーム中のパフォーマンスに及ぼす食事の影響	共著	昭和62年3月	昭和61年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、pp319-328	<p>的としてキーワードの処理を行なった。</p> <p>共著：大串哲朗、大橋二郎、鈴木滋、<u>木幡日出男</u>、小野太佳司 長浜尚史、大根田徹：食事とその栄養成分が選手のゲームパフォーマンスに及ぼす影響について調査し、併せて課題を見出した。</p> <p>単著：<u>木幡日出男</u> 全国大会出場した中学生の競技動機、意欲、ストレス耐性やコーチとの関係など心理学的側面を中心に調査分析し、その特徴を明らかにした。</p>
20. Psychological Aptitudes of Junior Players During National Soccer Tournament	単著	昭和62年4月	First World Congress of Science and Football (Liverpool)	<p>共著：富岡義雄、杉山進、<u>木幡日出男</u>、松原裕、江口潤 思春期の中学校サッカー選手を対象にチームという集団からの「退部」に関して心理的問題を含めその現状と課題を明らかにした。</p>
21. 中学校サッカー選手の「退部」に関する調査結果	共著	昭和62年5月	昭和61年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p31-45	<p>共著：<u>木幡日出男</u>、戸苅晴彦、杉山進、岩村英吉、富岡義雄、松原裕、福井哲、江口潤：全国大会出場チームの選手を対象に競技意欲や技術向上意欲など心理的競技能力を調査分析した。</p>
22. 中学生サッカー選手の心理的適性	共著	昭和62年5月	昭和61年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p46-52	<p>共著：大橋二郎、大串哲朗、山中邦夫、磯川正教、松原裕、<u>木幡日出男</u>、江口潤、河合一武、長浜尚史 運動強度の高いサッカーにおいて試合前の食事とコンディションがどのように試合のパフォーマンスに影響を及ぼすかを調査分析した。</p>
23. サッカーの試合前のコンディショニング期における食事の実態と試合に及ぼす影響	共著	昭和63年3月	昭和62年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、pp329-336	<p>共著：磯貝浩久、小野太佳司、<u>木幡日出男</u>、富岡義雄、松原裕：心理学的側面である集団凝集性と選手の心理的適性との関係をこのモデルを援用して明らかにした。</p>
24. Dual Construction Personality Model からみたサッカー選手の心理的適性とチームの集団凝集性との関係	共著	昭和63年5月	昭和62年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p32-38	<p>共著：杉山進、<u>木幡日出男</u>、江口潤、松原裕 全国大会出場の少年チーム選手を対象に日常生活から練習や試合における意識や実情を明らかにした。</p>
25. 全国少年サッカー大会アンケート	共著	昭和63年5月	昭和62年度(財)日本サッカー協会科学研究部報告書、p52-56	

26. 7-a side soccer におけるプレーの速さ	共著	昭和 63 年 10 月	日本体育学会 第 39 回大会号 p 660	共著：河合一武、磯川正教、鈴木滋、 <u>木幡日出男</u> 、江口潤 狭いコートにおける 7 対 7 ゲームの運動強度と速さを知ることで、正規の試合に通じるトレーニングプログラムの妥当性を検証した。
27. 指導者用アンケート報告	共著	平成元年 5 月	昭和 63 年度（財）日本サッカー協会科学研究部報告書、pp 25-28	共著：松原裕、 <u>木幡日出男</u> 、杉山進 継続研究として全国大会出場チームの監督を対象に指導実態の調査を実施。
28. 中学生大会選手アンケート調査～ファウルについての考え～	共著	平成元年 5 月	昭和 63 年度（財）日本サッカー協会科学研究部報告書、pp 29-45	共著：杉山進、 <u>木幡日出男</u> 思春期にある全国大会出場した中学生選手を対象に「ファウル」をすることに対して心理的状況とその課題を抽出し、中学生の指導者における指導課題を得た。
29. 第 12 回全日本少年サッカー大会出場選手の調査について	共著	平成元年 5 月	昭和 63 年度（財）日本サッカー協会科学研究部報告書、pp 58-65	共著：木幡日出男、杉山進、松原裕：全国大会出場の少年チーム選手を対象に日常生活から練習や試合における意識や実情を明らかにした。
30. 子どもスポーツにおける父母の役割～父母会の現状について～	共著	平成 2 年 2 月	第 10 回サッカー医科学研究会報告書 pp115-121	共著：江口潤、杉山進、 <u>木幡日出男</u> ：子どものスポーツに強く関与している保護者の集まりの一つである父母会を焦点にその現状と問題点を明らかにした。
31. サッカーゲーム中の運動強度に関する研究—酸素摂取量からみた運動強度の測定—	共著	平成 2 年 3 月	平成元年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No. II 競技種目別競技力向上に関する研究 pp. 55-65	共著：大串哲朗、大橋二郎、鈴木滋、 <u>木幡日出男</u> 試合の運動強度を把握するために試合中の酸素摂取量を計測し、その生体負担の度合いを明らかにした。
32. 血中乳酸濃度からみたサッカー競技の生体負担度	共著	平成 2 年 10 月	日本体育学会 第 41 回大会号 p677	共著：磯川正教、戸荊、鈴木滋、大橋二郎、大串哲朗、長浜尚史、 <u>木幡日出男</u> 疲労物質である乳酸の蓄積量を測定することで、サッカー競技の生体的負荷を明らかにした。
33. サッカー選手としてのスポーツ・タレント発掘方法に関する調査研究	共著	平成 3 年 3 月	平成 2 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No. VI スポーツタレントの発掘方法に関する研究（第 2 法） pp. 3-10	共著：加賀秀夫、杉山進、富岡義雄、 <u>木幡日出男</u> 、江口潤、中塚義実 優秀な選手育成のために、資質的要因（体格、体力、技術、戦術、心理、社会要因）について全国大会出場したチームの青少年指導者を対象にその重要度を

34. サッカー選手としてのスポーツタレント発掘方法に関する調査研究 (第2報)	共著	平成4年3月	平成3年度日本オリンピック委員会スポーツ医・科学研究報告 No. VI スポーツタレントの発掘方法に関する研究 (第3報) pp. 13-21	明らかにした。 共著: 加賀秀夫、杉山進、富岡義雄、 <u>木幡日出男</u> 、江口潤、中塚義実 継続研究として面接法を用い、小中高大各年代の一流指導者を対象にその質的データを収集し、各年代における特徴を抽出した。
35. サッカーのゲーム分析システムの実用化 —NAS-5—	共著	平成6年3月	平成5年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 No. II 競技種目別競技力向上に関する研究 (第17報) pp183-190	共著: 河合一武、磯川正教、鈴木滋、大橋二郎、松原裕、 <u>木幡日出男</u> 、福井信司 これまでアナログ形式での情報収集法からコンピューターを駆使した情報分析手法の開発と実用化を試みた。
36. サッカータレントの発掘方法に関する研究—Jリーグ各チームのスカウト担当者に対する面接調査より—	共著	平成6年3月	平成5年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 No. II 競技種目別競技力向上に関する研究 (第17報) pp191-196	共著: 中塚義実、杉山進、 <u>木幡日出男</u> 、江口潤、富岡義雄、仲澤眞、坂本康成、高橋義雄、中野尊志: 継続研究としてプロ選手発掘やスカウト担当者を対象にタレント発掘の視点を面接法により収集し、併せてスカウト組織の現状についても調査分析した。
37. サッカータレントの発掘方法に関する研究—日本代表選手のキャリア形成に関する要因について—	共著	平成7年3月	平成6年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 No. II 競技種目別競技力向上に関する研究 (第18報) pp137-144	共著: 中塚義実、杉山進、 <u>木幡日出男</u> 、江口潤、大橋二郎、掛水隆: サッカー日本代表選手とその指導者を対象にどのようなスポーツ・キャリアを経てきたのか、その発掘・育成方法、どのような資質を備えていたのかなどを質問紙法と面接法により調査分析した。
38. プロ・サッカー選手へのキャリア・カウンセリング～構想外通告を受けた選手の意識調査から～	単著	平成10年1月	第18回サッカー医科学研究会	単著: <u>木幡日出男</u> 中学生期の被調査対象者が35年後にどのようなキャリア形成を経て現在の職場で職業生活を送っているのか、その経年的変化を職業能力形成の視点から縦断的追跡調査をした。
39. 「プロ・サッカー選手のキャリア・トランジションにおける心理的プロセスについて」	単著	平成16年1月	日本フットボール学会 1st Congress, p. 94	単著: <u>木幡日出男</u> 移籍経験のあるプロ・サッカー選手が契約更新されなかったときの心理的傾向と特徴を面接法により事例研究を行った。
40. 「個人のキャリアと職業能力形成」—「進路追跡調査」35年間の軌跡—	共著	平成17年3月	労働政策研究・研修機構「労働政策研究報告書」 No. 27, pp. 41-45, 204-209.	共著: 奥津真理、堀有喜衣、小杉礼子、中島史明、鈴木勝夫、國吉重徳、上脇貴、高嶋成豪、 <u>木幡日出男</u> 、松下由美子、緒方一子、澤田富雄

				<p>「職業能力開発に関する労働市場の基盤整備のあり方に関する研究」の一部である。50歳前後の労働者個人が、これまでどのように職業能力を身につけ、キャリアを形成してきたのかを事例研究により明らかにした。(第2章第8節とケース記録を執筆。)</p>
--	--	--	--	---